

大昔の揖保

(旧穴栗郡、旧揖保郡、旧龍野市、姫路市)

大昔、播磨の国（針間の国というてい
ました）の国津神（はじめから住んでい
て、その国をおさめていた神のこと）は
葦原志挙乎命、すなわち伊和大神でした。

ところがある日とつぜん、新羅国（今の
韓国）から王子の天日槍が船をつらねて、
宇頭川（今の姫路市付近）の川口の宇須岐津
（今の網干港）にあらわれて、
「国王のあなたに、私の宿るところをかして

くださるように頼む。」

と申し出ましたが、主の神はこれをゆるしま
せんでした。すると、天日槍は劔で海水をか
きならし、渦をつくってその上に船を寄せ合
わせて一夜を過ごしたのです。

その勢いさかななようすをご覧になった
伊和大神はおどろいて、

「異国の神に国をとられぬうちに、早く国占
めをせねばならぬわい。」

と大急ぎで、宇頭川をさかのぼることになり
ました。

やがて中臣の丘（龍野市揖保町）に上がり、
ここで食事をとられました。このとき、口
もとから飯粒をたくさんこぼされたので、こ

の丘を粒丘とよぶことになりました。それに
よってそのあたりを粒里ということになり、
後に揖保郡（今のたつの市・揖保郡太子町）
となったのでした。

伊和大神が、川をさかのぼって、たつの
市新宮町平見までこられたとき、大神の褶
（平帯）が落ちたので、ここを比良美村とよ
ぶことになり、いつからか平見となりました。
国占め争いの相手の天日槍は、川の対岸の
川戸村（宍粟市山崎町川戸）に宿りましたが、
川の瀬音が高く眠られず、
「川の音いと高し。」（川の音がたいそう高い
のう）
となげかれたので、ここを川音村といったと

いうことです。

それから二人の神は、宍禾郡（宍粟郡）の
山や谷を奪い合ったので、ここを奪谷とい
い、そのため谷の形が葛のように曲がったの
だといわれています。奪谷というのは、今の
山崎町蔦沢あたりのことでしょう。こうし
て先を争いながら宇頭川をさかのぼっていき
ましたが天日槍の方が先に上流につきまし
た。
おどろいた伊和大神は、
「度らざるに、さきに到りしか。」（思いもか
けないことに、彼が先についたか）
といわれたので、このあたりを、波加村
（波賀町）ということになったということだ

す。

川上かわかみに着ついた二神にしんは、ついついににここで国占くにじめ争あらそいの結末けつまつをつけることになりなりますが、そのことは「播磨一はりまいちの宮みや」のお話はなしにくわしく出でています。

国争くにあらそいとは別の話べつのはなしに、新宮町しんぐうちょう觜崎はしぎきの山やまに、いたただきから麓ふもとの揖保川いぼがわの流ながれの中なかまで、屏風びょうぶを立たてたような形かたちの岩いわがあって、文化庁ぶんかちやうから天然記念物てんねんきねんぶつに指し定ていされております。この岩いわは、伊和いわの大神おおかみが、米俵こめだわらを積つんで天てんにのぼる橋はしとされたとつたえられており、山やまの名なが御橋山みはしやまとなっています。

觜崎はしぎきの地名ちめいは、御橋山みはしやまの端はしにあるところからできたのでしょう。またこの山やまの端はしは、

鶴つるの觜くちばしのような形かたちをしているところから、鶴觜山つるはしやまともいい、それから觜崎はしぎきの地名ちめいが生うまれたともいいます。

